

- 友人から聞いた話が今回の講演内容と重なる部分が多く、小学生の頃は話を聞くことしかできなかったが、周りに相談をしていたら少しは違っていただのかもしれないと思った。友人も自分の家庭環境がおかしいと気付くのに時間はかかったと言っていたため、やはり周りが気付いてサポートすることが大切だと感じた。日本のサポート体制を整えることが必要だと思った。

- 児童虐待の現状だけでなく、講師の方の過去の辛い経験をあえてユーモアを交えて話していただいたことで内容が理解しやすかった。精神的虐待は特に目につきづらいものだが、身近で疑うような案件があった際にはいち早く通報する勇気を持ちたい。

- こどもの人権被害の根底にあるのは『女性蔑視』だとお話があり、男性が、体力・経済力などの優位な立場を利用し、女性を追い詰めることで、こどもを虐待してしまう仕組みが改めてわかった。女性、こども、高齢者が弱い立場であることをしっかり念頭において、対話することが大事だと感じた。

- 子どもの虐待の防止には、その親を救うことが必要だということは、新しい視点だった。

- イラストがあったのでわかりやすく聞くことができた。

- 児童虐待のニュースをよく目にするものの、身近にそういうことが起こったこともなく私の身近には児童虐待はないと思っていた。しかし、今回の講演を聴いて私が児童虐待という認識をしっかりと持てていなかっただけなのではないかと感じた。こんなにも恐ろしいことがなくなる世の中は本当におかしいと改めて思った。児童虐待がなくなるような世の中にするためにはどうしたらよいのか自分なりに考えていきたいなと強く感じた。辛い思いをしている人を救えるような行動をしていきたい。

- 虐待の当事者のお話を生で聞ける機会が初めてだったので、被害者本人が助けてと周りに言えない理由や虐待により起こる認知のゆがみ、虐待が起こるプロセス、その後の支援制度の不十分さなど、大変勉強になった。また、講師の方で言えばあちゃんや友達、パートナーの方のような、支えになる人の存在の大切さも改めて感じた。

- 今回の人権研修では、虐待サバイバーの立場やその心の痛みについて学ぶことができ、とても深い気づきを得た。虐待を受けた子どもたちは、身体的・精神的な傷だけでなく、その後の人生にも大きな影響を受けることを改めて理解した。サバイバーが安心して話せる環境や、適切な支援がいかに重要かを知り、社会全体で彼らを支

え、尊重する必要があると感じた。私たち大人一人ひとりが、虐待の早期発見と防止に積極的に関わることが求められていると強く感じた。今後は、虐待の影響を理解し、子どもたちが安全で健やかに成長できる環境をつくるために、日々の行動や言動により一層の配慮をしていきたいと思う。

- ユーモアを交えながら実体験に基づいた話に引き込まれた。著名人による研修は、通常の研修とは異なりとても有意義に感じ、記憶に残る研修になった。
- 講師の先生が実際に経験されたこともふまえて学ぶことができ、改めてこどもの人権について考えることができた。また、こどもの人権について先進的なイギリスと比較し、日本の仕組みはまだまだであることを実感した。そして、こどもの人権の根本にある問題についても知ることができた。私も問題となっていることの背景にある課題を見つけ解決していけるようになりたいと思う。
- 実際に児童虐待を受けた方の経験談を伺うのは初めてだったが、導入から体験談までわかりやすく講演をしていただき、以前より知識を深めることができたと思う。異変に気がつける大人でありたいと感じたし、迷わず「189」をし、困りを抱えている子どもを救いたいと思った。貴重な講演をいただきありがとうございました。
- 講師の方がおっしゃっていたように、対応の仕方はその人その人で違うため、自分で解決しようと関わっていくよりもプロに任せたほうがいいということを聞いて、その現場に実際に直面したときの正しい対応の仕方を知れて大変参考になった。もしも自分の身の周りに苦しんでいる子供がいたら速やかに通報するよう心掛けていきたいと思う。
- とても面白い内容で、子供の人権に関する理解も深まった。
- おもしろい内容だったので1時間半ではなくもっと聞きたかった。映画を見たいと思っている。
- 虐待の加害者に母親が多く、それが女性の人権問題を背景にもつことが分かった。
- 実際に虐待を受けた方の話を聞くのは初めてだったため、より深く知ることができた。また、歌川さんの小説や映画も機会があれば観てみたいと思った。

- 虐待サバイバーという単語を初めて聞いたので難しい内容かと思ったが、講師の方がとてもユーモアで分かりやすかった。海外と国内のデータを比較したり実際のお話を聞いたりして、より虐待問題について勉強しようと感じた。
- 貧困や社会的隔離等により虐待に繋がるフローが再認識できた。社会福祉士に限らず、自衛隊、警察、保育士等国内では人手不足が深刻化している。少子高齢化、賃金問題、職場環境が課題であると思うが、虐待が各種障害や最悪死亡に繋がらないよう、国全体で考えていくことが重要だと思う。
- 実体験を含んだお話をしていただき、とても貴重な研修になった。
- 生まれおちた環境によって、自分の本心すら忘れるほどの悲惨な経験をしてきた子供もいる。もしかしたら気づいていないだけで身近にいるかもしれない。自分の子供はもちろんのこと、そんな子供たちを気づいて、救えるような大人になっていかなければならない。
- 先生の凄惨な体験を交えながら、日本における児童虐待についての現状を分かりやすくお話してくださったと思う。特に印象的だったのは、疑わしい事例は「189 いちはやく」通報すること、日本とイギリスの児童福祉士の人数及び習熟度の差についての2点。特に後者は、日本における子どもの人権や虐待に対する認識の低さがよく分かる事例だったと思う。虐待サバイバーの中で先生のようにご活躍されている方もいれば、反社会的な行動に及んでしまう事例もあることから、被虐待児のケア(精神面・金銭面ほか)は重要であると強く感じた。また、児童虐待の解消のためには保護者(特に実母)の救済が必要であるということ、そのためには女性の人権問題や女性蔑視についても社会的に解消していく必要があるということが理解できた。特に保護者の救済が必要であるという考え方は広く浸透して欲しいと思う。
- 日本のお母さんががんばりすぎ問題に言及していただいて、うれしかった。子どもの虐待の根幹に女性蔑視があるのではとの見解に、はっとさせられた。
- 講師自らの実体験をもとに語られた内容であり、こどもからの視点や虐待が発生するに至った親を取り巻く環境についてや、海外先進国と日本の取組状況や制度の比較等、様々な視点から知ることができる研修だった。
- 今自分の身近にヤングケアラーの方はいませんが、決して他人事ではないのだということを強く認識できた。ありがとうございました。

- 虐待された子の心のケアは本当に大切だと思う。親から子への悪循環にもケアがあればいいと思う。教育を受けてない人間がケアに回るのは本当に難しいし、当事者を傷つけてしまう可能性があると思う。
- 講演者自身の体験等が中心の講演だった。体験談も必要だとは思いますが、ほかの話にもっと時間を割いてほしい。
- 子どもの人権問題について自身で考えていたことと別の切り口で話をされていたので勉強になった。
- もう少し時間があるとよいと感じた。
- 自分には虐待の経験がないので想像し難かったが、実際の経験をもとにした講演を聞くことができてよかった。色んな方がいるということを知るだけでも今後の仕事に役に立つと思った。自分のつらい経験を人に話すことは並大抵のことではないと思うが、わざわざ大分まで来ていただいてありがたい。
- 虐待サバイバーとしての話は、講演者の実体験ということもありとても心に響いた。私も子供がいるため、叱る際に人格否定などの心理的虐待になることのないよう気を付けたいと思った。
- 講師の実話に基づいた内容であり、非常に参考になる講演だったと思う。また、児童福祉の状況については、日本とイギリスでは大きく違い、日本がいかに遅れているかがよくわかった。
- 日本の児童虐待の現状と講師の方の幼少期の実体験、他国と比較した子どものサポート体制など、いくつかのテーマを織り交ぜた講演でとても勉強になった。
- 今回講師の歌川泰司さんの話もとても分かりやすく、興味深い内容だった。
- ヤングケアラーやネグレクトなどの話をニュース等で聞くようになったが、表面的な部分しか知らないと感じた。子どもを助けると同時に、親への支援が必要だと分かった。
- 実体験に基づいた講演だったため、現実的な問題として受け止めて考えることができた。

- 元気のない人がいたとき、見て見ぬふりをするのではなく、小さなことから声かけをしてコミュニケーションをとることが大切と感じた。また、自分自身が困難に陥ったとき、「なんとかなる」と思いながら、物事に取り組むことも大切と感じた。
- LGBTQ 差別・児童虐待どちらも受けてきた歌川さんは壮絶な人生を歩まれて、私だったらすぐに人生を諦めていただろうなと思った。考えるだけでも恐ろしいのに、家にも学校にも逃げる場所がなく、ばーちゃんだけが救いだったと聞いたときすごく辛かった。最期にばーちゃんが話していた言葉を聞いたときには思わず涙を流してしまった。児童虐待は通報する人気づく人が増えたから発見される件数も多くなっていることがわかり、今も昔も実際起こっている件数はそこまで変わらないことも知った。歌川さんの活動はこれからもより多くの人に知ってほしいと思ったし、通報する人も増えてほしいと願っている。
- 講師の方の実体験をふまえた話を聞いて、子どもの人権の大切さを身近に感じることができた。
- 大変、参考になった。自分の子供のことを考えながら講演を聞くと、より身近に感じて内容もよく理解できた。
- 自分が子どもだった 40 年ほど前、子どもの人権はまだ軽んじられていたことに気づかされた。自分は割と大事にされていた方だと思うが、それでも小さい頃は悪いことをすれば柱に縛られて実際にお灸を据えられることがあり、当時はそれが当たり前だと思っていた。今回の講義を聴くことで、虐待の疑いを目にすることがあれば通報するようにしたいと思えるようになった。
- わかりやすい内容で良かった。
- 子供が虐待を受ける原因について考える事ができた。当時は妻がなぜ激しく怒るのか全く理解できずに困惑したので、このような研修を受けていたら違った対応ができたかもしれない。孤独を感じていたと思う。
- 本当にお話が興味深くわかりやすく、あっという間に終わった。まだまだ話を聞きたいと思った講演は、初めてかもしれない。両親がどんなにひどい人でも、一人だけでも理解者がいれば歌川さんのような素敵な大人になれるんだと分かった。子どもたちに愛情いっぱい注いで、祖父母にも愛情をいっぱい注いで育てて行こうと思った。本当にいいお話が聞けて、成長できたと思う。充実した時間をありがとうございました!!

- 普段意識することがない内容だったので、自分の考えを広げる良い機会になった。これから市役所で働いていくうえで様々な背景を持った方と関わっていくと思うが、より幅広い視点をもって柔軟に物事を考えていく必要性について改めて理解させられた。

- 私自身も子どもの虐待という話題をニュースで見たときに、かわいそうで親には厳しい刑をと思っていたが、それは本当に子どもの虐待を解決しようと考えていない無責任な考えであると自覚させられた。汚いものやかわいそうなことから目をそらしてしまいたい気持ちはやはりあるが、絶対に虐待ではない言い切れない場合は、ためらわずに 189 に通報しようと認識を改めたことに加え、女性蔑視の昔ながらの悪い固定観念に自分の言動がなっていないかを見直すきっかけになった。胸が痛くなる話だったが、現実を受け止める非常に良い講演だった。

- 今後児童相談所等の専門機関が増え、専門的な知識を持つ職員の配置がされると良いと感じた。

- 児童虐待を行う原因として親の生育歴や親の当時の置かれている状況等がすごく関係していると感じた。負の連鎖が続いてしまわないようにどのようなことができるのか考えていきたい。

- 実際に虐待を経験した方からの体験談を聞くことで、虐待のよりリアルな部分や、こどもが感じることなどを学ぶことができたので貴重な体験になった。特に、こどもの虐待と聞くと、虐待を受けたこどものケアを一番に考えると思うが、虐待の根本的な問題となるのが「女性蔑視」であり、その部分の支援やケアをすることが必要となることに納得した。孤立しがちな母親への支援にもっと力を入れていくべきであると感じた。LGBT の話も明るく話していただき、多様性を考えるきっかけにもなったと感じた。貴重な学習の機会をいただけてよかった。

- 虐待をなくすにはどうすればよいかというところをわかりやすく解説していただいたので、自治体職員として、大人として自分が何をすべきかを学ぶことができた。

- 人権侵害の根本的な要因を見抜かないと、場当たりの対応では、解決しないと思った。育児をする中で、原因が子供にあるのではなく、自分にあることも多々あったと思いなおすことができた。こどもの虐待問題について原因が課程のみではなく、社会構造や日本人の考え方や価値観にもあるという部分が大変勉強になった。表面的な問題としてとらえるのではなく、物事の原因を深く丁寧に考えていく姿勢を今後の業務で意識していきたいと思う。

- 講師の方ご本人が描かれたイラストがあることでよりそのときの心情が鮮明に伝わってきた。あまり触れたくないテーマではあるが避けるのではなくしっかりと向き合うことが解決の第一歩になることが分かった。
- 実体験をもとに現在の日本の母親の経済的状況やこどもの人権問題に対する支援の不足等を説明してもらったため、わかりやすく理解できた。現在の日本の状況に対してもっと主体的に考えていかなければならないと感じた。
- 実体験をベースにした講演内容だったので、生の声が聞けて良い経験になった。
- 虐待を受けている子どもたちがどういう心境で、環境で育っていくのか等を実体験を交えながらお話していただき、学ぶことができた。今後そのような状況を目の当たりにした際には、「絶対に虐待ではない」と言い切れる状況かどうかを判断基準とし、勇気と責任を持った行動をしようと思った。
- 私も生活保護の CW をしており、これからはより細部の家庭状況まで確認し、支援をしていきたいと感じた。また、少しでも異変を感じた際は、早急に 187 へ通報しようと思う。
- 日本と海外を比べ、日本は子ども虐待の専門員の数少なく、専門性も乏しいことに驚いたと共に、組織の仕組みもさらに強化すべきだと感じた。今後も子どもの人権について学んでいきたい。
- 話が分かりやすく、興味深かった。
- 講師の経験から具体的な話を聞きながら子どもの人権について学ぶことができ、よりリアルに人権侵害があることの実態を知れたと思う。子どもの虐待や虐待の経験者による殺傷事件などのニュースを見てはいつも、「被害者がかわいそう」「虐待している人が悪い」と漠然と感じていたのも、そういった話が他人事だった自分がいたからかもしれないなと感じた。私も子どもがいるが、子どもに対して強く言ってしまうときは大抵別のことに追われていたり、一人で子どもを見ているときが多く、世の中の母の大変さに目を向け、もっとサポートする体制が必要だという話にとっても納得した。話を聞いて、周りで困っているお母さんがいたらサポートしたいし、近くの子どもの様子にも気付けようになりたいと思った。
- 虐待を受けた子どもが抱えている思いについて具体的に知ることができた。また、先生が言われていたように母親の負担が大きいというのにはとても納得し、国や職場単位での取り組みが大切であると強く思った。

- これまでの人権研修では部落差別問題が中心であったため、子どもの人権ということで新鮮だった。できれば、子ども家庭支援センターの職員を交えて、シンポジウム的な感じで対談する時間を設けてもらえると、さらにより研修にできたのではないかと考えた。
- 時にユーモアを交え、先生自身の体験や現在のこどもの人権問題についてお話をさせていただき、自分自身がそういった問題について考える・向き合っていくいいきっかけとなった気がする。
- 虐待を経験した当事者からの実体験に基づいた話を聞くことができ、勉強になった。
- 仕事内容に直結する、かつ、わかりやすい内容で、聞きやすい講演だった。子ども時代のお話を聞いたとき、虐待児の思いを知ることができた。これから、虐待の面談をする際には、今回の公演内容を思い出しながら、話を聞いていきたいと思った。
- 被虐待体験をした方のはなしをきくことができ、今後の対応をより迅速に的確に行おう、と身の引き締まる思いだ。イギリスと日本の CW の数の違いについては驚いた。現在も人員不足はとても身近に感じており、丁寧なケース対応ができているかは怪しい部分がある。もう少し人員補充がされるとよいなと改めて思った。
- 人権が奪われそうになっている子どもから話を聞くことが多いが、その問題を乗り越えた大人から当時のことを聞く体験は初めてで、昔の「見て見ぬふりをする」時代の酷さも相まって実に衝撃的だった。自分の心を殺して我慢しようとする子どもを一人でも少なくするために、今回の講演で感じたことを忘れずに働こうと思った。
- 自身の体験をもとに漫画を交えた説明がわかりやすくもあり衝撃的でもあり、印象に残る研修だった。
- 中央子ども家庭支援センター所属であるため、とても関心深い内容だった。虐待サバイバーの方から直接話を伺うことがなかったため、当事者の話を聞いてさらに頑張ろうと思った。
- 実体験を直接耳にすることで大人が虐待を見て見ぬふりをする辛さや友人・おばあちゃんが支えてくれる有難さを自分事のように感じる事ができた。特に刺身包丁のお話は切られていないのに腕と心が痛くなった。また、「虐待をするような大人が全部悪い。救うべきは子どもたちだ。」と思っていたが、歌川さんのお話を聞き、子どもの人権を守る範囲には限界があり、子どもを救うにはあらゆる貧困に陥っているお母

さんやお父さんを救うべきだと思った。歌川さんのお話を通して、「子どもには救いの場が必要」「女性を守ることが子どもを守ること」「支えてくれる存在をつくる重要性」「人生なにがあってもなんとかなる」という知見を広げることができた。

- 虐待サバイバーご本人から虐待の内容を直接聞くのは衝撃的だった。声があげられないこどもだからこそ発見しにくく、周りの大人が気づき助けてあげることが大事だと思った。心理的な虐待については自分も一歩間違えれば、当事者になりかねないと思った。言い方ひとつでこどもを傷つけてしまうことがあるということを気にしながら生活しようと思った。

- 実体験を聞くことができ、虐待やネグレクトの問題をより身近に感じた。また、その残酷さや問題などを改めて考え、私たち大人がこどもを守らなければならないこと、またこどもを守るということは、その保護者に手を差し伸べないといけないことを再確認した。辛いことがあっても、一人でも助けてくれる人、支えてくれる人がいれば生きていけると思った。私も困っている人に手を差し伸べて支えてあげれる人になりたい。ありがとうございました。

- 実体験とデータを通して現状を分かりやすく講義してもらい、考えるきっかけとなった。

- 引き込まれる話だった。

- いままで私の身近には私より年下の子がいなかったため「こどもの人権問題」について相談を受けたり身近に感じたことはなかったが、現在の職場はこどもと深く関係のある業務を行っているのでもっとこどもの人権問題について知るべきだと今回の研修を通して考えることができた。

- 特になし。

- 実体験も交えながらの説明や問題提起であり、参加前よりも理解が深まったと思う。内容に飽きることなく1時間半聞き続けることができた。本質的な自分について気付くきっかけになったおばあちゃんの話に感動した。肉親でなくても、自分にとって大切な存在になる人は必ず縁があるし、それを大事にすることが自分自身や子ども自身を大切にすることに繋がるんだなと感じた。また、自分も育児でいっぱいになったとき、孤独を感じたことがあり、そういうときの状況が他人事と思えなかった。そのようなとき、子どもにとって救いがない状況だけは避けたいし、自分も誰かに頼ることに意識を向けなければいけないと思った。親も子供もSOSを出せない方もいる、今の社会を変えていくきっかけに自分の意識を持っていきたいと思った。

- 講師の方の過去の経験を交えてお話いただいたので、聞いていてリアリティがあって内容が入ってきやすかった。
- 今回の講演はとてもためになった。虐待を受ける子ども、虐待する親の心理、虐待を受けた子どもの成長、虐待をなくすためにはどうすればよいのか、どれも自分が考えたことのないようなことばかりだった。子どもを育てることを母親、父親のどちらかに押し付けず、夫婦で、社会で協力して育てていくことが虐待を減らす方法なのではないかと、講演を聴いて強く感じた。
- 具体的なエピソードも交えていて、とても分かりやすかった。
- 子どもの虐待についての理解が深まった。
- 今回の公演でこどもの人権について学ばなければいけないと思った。今後は今回の公演の内容を生かせるようにさらに勉強していく。
- 自分自身が辛いときには、歌川先生の「なんとかなるから早まらないで」という言葉を思い出すとともに、今後少しでもおかしいと思うことがあればいち早く通報したいと思った。
- テレビの番組やニュース等で虐待について見た事はあったが、実際に話を聞いたのは初めてだった。自身の辛い体験談を人に話すのは、個人的には当時の嫌な思い出や辛かった事等あると思うので簡単ではないと思うし、凄いと思った。特に、自分が居て良かったと母親に思わせてやる、という気持ちで母親が大変な時に見捨てるのではなく助けたと言っていたが、自分がもし同じ立場なら、講師の方と同じ事ができるだろうかと考えさせられた。
- 講師が虐待を受けたにもかかわらず、立ち直って生きていることに驚いた。
- 身近に行われた実体験をつらいと感じながら講演していただきまして、ありがたいなと感じた。一人の親として子供の人権を守り成長を感じたいと思う。貴重な話ありがとうございました。
- 講師の方のこれまでの人生について、途中言葉を詰まらせながら話しているところが印象的だった。自分が受けた大変な出来事を前向きな方向に向けているのは、とても自分じゃできないと感じ、すごいなと思った。

- 歌川さんのご自身の体験を踏まえた講演で、非常にわかりやすく、考えさせられる内容だった。参加できてよかったと思った。今後、活かしていきたいと考える。
- ためになった。
- 身近に子どもの人権を阻害するような場面に遭遇したことはないが、今後自分に子どもができたときや周りに子どもができた時は、今日の講演で習ったことを活用したいと思った。講演はじめの方に LGBT の話もされていたが、講義の中で都度都度性別に対する偏見があるように感じた。LGBT のお話をされたのであれば、多様性、男だからこう、とか女だから、とか男の人を優先的に助ける、等の発言は少し不快だった。
- 自分の認識していない、知らない、知ろうとしていない内容の研修で、大変勉強になった。この研修をきっかけに勉強してみようと思う。貴重な体験談から、日本や世界全体の情報の説明が分かりやすかった。
- 実体験に基づく貴重な話だったと感じた。歌川先生の場合は助けてくれる人（ばあちゃんや友人）がおり、ご本人の努力もあり現在の環境を勝ち得たが、助けを求めるところもできず逃げ場もない子どもも多数いるのだろうと感じた。行政職員として周囲に目を配り、一人でも多くの子どもの人権を守ることができるよう努力したいと思った。
- 子どもという大人の視点から見ると弱い立場の者に対する大人からの、物理的または精神的な暴力に対し周囲の大人たちがアンテナを張り巡らせて守っていく必要があると感じた。
- 子どもの人権や福祉について、関心はあるけれど、具体的に自分が何ができるかというところが難しいなと感じた。まずは感心をもつこと、虐待と疑われたらまず通報というところを今回の研修で、心に刻めたのでよかった。
- 人権研修を今後も継続して実施していただきたい。
- 実際に当事者の話を聞いたことは、理解がしやすかった。
- 講師の実体験を基にした内容であったので、非常にわかりやすいものだった。
- 歌川さんがご自身の大変なご経験を経て、またそれを活かして、現在の素敵なお人柄で、子どもたちや社会のために活動されているということ、素晴らしいと思った。

虐待の根本的な原因が「女性蔑視」であることにも、大変納得できた。母親が孤立せず子育てができるような社会にしていきたいし、今回の参院選がそれに繋がるといいなと思う。政治に関する発言も踏まえながらのご講演も、本当に良かった。ありがとうございました。

- 自分の子どもに置き換えて考えることができた。こどもの人権問題について、再認識することができた。
- 児童虐待に対しての補正予算を確保している自治体が少ないという話を聞いたのがよかった。
- 講師の実体験による内容だったため、衝撃的だった。内容ももっと多くの職員が聞いておくべきだと感じた。職員のみが対象であったため、支所等の出先職場のことも考えるとオンラインでも受けられるようにしたほうがいいと感じた。自身の被虐待体験という重いテーマだったが、明るくわかりやすく話していただきとても参考になった。
- 講師が話す内容が、実体験をもとにしていることもあり身近に感じることもできた。
- 私は前から2列目の席であったが、スクリーンの位置が高く、首をかなり上にあげないと見づらい環境だった。
- 子供の虐待割合が0才から1歳児が半数を占めていることは知らなかった。虐待に対する理解度を深めることができた。育児をしていく中で家庭内ストレスをためず、積極的に育児に参加していきたい。
- 大分県および大分市は、虐待対応ダイヤル「189」の認知がとても低いと感じた。さらに広報するべきである。
- 自分自身の子供に対する態度等を見直そうと感じた。日本の貧困について調べてみようと思う。
- 日本は子供の人権や虐待された方へのサポートがまだまだ足りないことを再認識した。無関心をやめて少しでも誰かの役に立てるような人間になれるように、自分ができることは何かを考え行動していきたい。おばあちゃんのような、誰かの救いになる人になりたいと感じた。
- 実体験を交えた講師の方のお話に説得力があり、分かりやすかった。

- こどもの人権問題の実情や世界のこどもの人権対策など理解を深めることができた。
- ご自身の体験を含めた講演であり、内容が分かりやすかった。私自身の子供に対する接し方から考え直すいい機会になった。
- 自分の身近にも存在しているんだなと感じた。対岸の火事にせず、自分自身もしっかり考えていきたい。こどもの人権について理解を深めることができた。講師の方がこれまでの人生経験を踏まえて説明をしてくださったので理解しやすかった。
- 自分自身の幼少期の経験を踏まえて講演をしていただきとてもわかりやすい講演だった。機会があればまた参加したい。
- 講演前は子供の人権問題という深刻な題目であることから、難しい話が多くなると予想していたが、先生の経験談をもとに、より問題意識を持つことができた。
- 非常に有意義な講演だった。あと 30 分ぐらい長くしてもう少しじっくりお話を聞きたかった。ありがとうございました。
- 子供の虐待は犯罪だと分かっているながらも、他人の家庭には口出ししてはいけない雰囲気はあると思う。だが、今回の研修で「絶対に虐待ではないと言えるのか?」との講師の言葉が印象的で、自分もそのような場面があれば積極的に声を上げていきたいと思う。子供の虐待の悲惨さと、母親支援の重要性が分かった。
- 講師がフランクでとても聞きやすかった。ありがとうございました。
- 実体験と数値を用いてご説明いただき、とてもわかりやすかった。虐待を受けていたと思われる身近な人に対して、過去の話を書くということは、実生活において正直難しい。先生のような逆境力のある方が発信してくださることは大変ありがたいと感じる。ただ、辛かった実体験を話すのは心労がかかると思う。ご自愛いただきながら、発信を続けていただけると幸い。
- 子供との関わり方について考え直すきっかけになった。
- 虐待の根本に女性蔑視があることに考えさせられた。
- 子の教育について考えさせられる講演となった。

- 講演内容や講師の伝え方が素晴らしく、引き込まれてしまった。現在、児童虐待の件数は増加傾向にあるが、昭和など過去の時代には「児童虐待」という言葉自体が社会に浸透しておらず、潜在的な虐待が存在していたことを考えると、児童虐待は昔からある深刻な問題なのだと改めて認識した。講師の方からは、その背景や原因についても教えていただき、大変勉強になった。

- 当事者である実際の講師の話聞いて、子育てを経験した一人の母親として身につつまされる思いで講演を聴いた。子どもは親を選べないこと、経済的弱者が心の余裕のなさから虐待をしてしまうことや性的マイノリティは子どものいじめにつながっていることの悲しい現実を痛感した。「虐待」「人権」から目を背けることなく、映画をはじめ、向き合っていきたいとおもった。

- 虐待は、虐待をする自身を洗脳して、周りを洗脳して、こどもを洗脳するということを知り、その洗脳に子どもが苦しめられ続けるということを知った。そして、こどもは虐待する親のことを他の人に悪く言えないということを知り、洗脳と相まって子どもは自分から SOS を発信できないものだと気づかされた。なおさら他人が声にならない SOS を感じ取り通報することが必要だと感じ、歌川さんが体験した、気づかないふりをする先生や医者にはなりたくないと思った。しかし、虐待によって認知がゆがみ、周りにとって関わりたくないと思うような子どもがいたら SOS を感じ取ることが難しいかもしれないと感じた。歌川さんが言っていたような、事件を起こす人について、安易な批判をするのではなく、その奥にあるものに目を向けて、いい社会を作ろうとすることは児童福祉士ではなく、我々にも必要な視点かもしれない。もっとみんなが子どもの虐待や過去に虐待を受けていた人に対してもっと関心を持つべきだと感じた。

- 1 歳ちょっとの子供がおり、すごく身近に感じた。少しの要因で虐待してしまう可能性もあるんだろうなと感じた。妻や自分自身も孤独にならないようにサポートしあって子育てをしようと思った。

- 初めて聴いた内容だったので大変参考になった。

- 歌川さんの実体験に基づいた話は、胸に迫るものがあつた。虐待という極めて深刻な問題について、当事者の視点から具体的に語られることで、これまで以上に現実味を持って受け止めることができた。

- 実際に虐待を体験した方による子どもが虐待している親に対して抱く感情を伺う中で今まで私が感じていた「なぜ、親から逃げたり、学校の先生に助けを求めたりせ

ず、児童相談所に保護されても親元に戻ろうとする子がいるのだろう」という疑問に対する答えが見つかった気がする。

- 講師の話し方が上手で、ひきこまれた。ありがとうございました。
- 講師が実際に虐待サバイバーとして経験し、感じたことを聞くことが出来る貴重な機会だった。終始、説得力があり、子どもの人権について今一度考えさせられる時間となった。自分も子育てしていく中で、子どもの人権・自尊心を傷つけることのないよう、しっかり対応していきたいと改めて考えた。
- 今まで実際に児童の虐待についてイメージが湧きにくい部分があったが、今回の公演では自身の経験をもとに講演をされており、実情を詳しく知れて勉強になった。実際に直面することがあった際には寄り添った対応ができるように心がけたいと感じた。
- 被害者の直の声を聞けて、とても心に響く研修だったと思う。早速、映画を見た。
- 日本と海外の差が知ることができ、日本は取り残されている現実があることを知った。
- これまで仕事上で子どもの人権問題について知る機会があっても、なかなか当事者の体験談を聞く機会はなかったため、リアルな話を聞くことができ、より問題意識が高まった。問題から目を背けるのではなく、正しく知って、自分にできることは何かを考えていこうという気持ちになった。歌川先生の映画を見てみようと思う。
- 実際に親から虐待を受けたことのある方の話を直接聞いたことがなかったので、歌川さんのお話を聞いたことは貴重な経験となった。想像を絶するような経験をしてきたにも関わらず、講演会の中で自分の過去のつらい経験を話す際にも明るくお話しされる姿が印象的だった。過去の話をもっと明るく話すことが出来るようになるまでには相当な苦悩や葛藤があったのだろうと思うが、人生に絶望して終わりを迎えることなく、生きていく姿を見て勇気をもらうことができた。
- 児童虐待は実母によるものが多いこと、シングルマザーの半数が貧困であることを知り、シングルマザーに対する支援を、より充実させるための方法を考えていくべきだと感じた。また、0歳児の死亡が圧倒的に多いことを知り、「助けて」と言えない子供たちを守るために、異変を感じたら迷わず通報することが重要であると感じた。

- 子を持つ親として、お話を聞いていて心が苦しくなった。抛りどころとなれるような親でありたいと思った。心の余裕、金銭的余裕はやはり必要なのだと感じた。無理して婚姻関係を続けて心身を削らなくてもいいように、ひとり親へのハードルを下げるような制度や補助金等、もっと整ったらいいのになあとも思った。
- 子どもの虐待について、知る機会がなかったので、事例を話していただいたのは貴重だった。
- 自身の過去を交えて分かりやすく講演を行ってくださりありがとうございました。自分は不自由なく幸せに生きてこれたんだと強く感じた。自分の父親は躰と称してクレーン車で吊るされたりしたと聞いていたので講演の内容と少しダブって見えた。
- 講師の方の話が上手で、1時間半の講演だったが飽きたり眠くなったりすることがなく、話の内容が頭に入ってきた。今回の講演の内容を忘れずに、今後の人生に活かしていきたい。
- 実体験を交えながらお話をしてくださっていたので、講師の先生に感情移入しつつこどもの人権について深く学ぶことができた。また、普段から育児の際には留意していることではありながら、自身の子どもへの接し方を改めて考える貴重な機会となった。このような講演が今後も定期的に行われると良いと感じた。
- 講師の歌川先生の半生が壮絶で、講演内容も大変心を打たれた。「ばあちゃん」のようなお考えの方は当時は珍しかったと思うが、人間の本質を見抜いていたと思う。虐待の根底に女性蔑視があるという結論は共感できるものがあつたし、今後もすぐにはなくならない状況で、周囲がいかに「ばあちゃん」のような存在になれるかが大事だと思った。
- 到底想像できないような辛い幼少期を過ごしているはずなのに、おばあちゃんがいたことを「こんなに運が良い人はいない」と仰っていたのがすごく印象に残った。私からすれば決して運が良いとは思えない人生だが、虐待サバイバーの世界は残酷だなと思った。自分の幼少期の生活、環境、実態などを俯瞰してみることができるのは何かを乗り越えた結果のことで、それまでの過程は想像もできないほど苦しただろうなと同情した。実体験を聞く機会は滅多にないので貴重な機会になった。
- 先生のユーモアたっぷりの話し方に親近感が持てた。ご自身が虐待サバイバーであることを包み隠さずお話いただき、本当に勇気のある行動だと思う。私自身も子どもを育てていく中で、本当に心からすべての子どもたちがおなか一杯ご飯を食べてたくさん大人に愛されて育ってほしいと思った。一人の大人として、一人の親として自

分に何ができるのか改めて考えなおすよい機会となった。本当にありがとうございました。

- 講師の実体験を基に人権問題について講演くださったので非常に分かりやすかった。

- 今回のお話は、決して楽しい話ではないが目をそらしてはいけない現実でもあると思った。虐待をする親が悪いと決めつけるのではなく、そうせざるを得なくしてしまう日本の社会と向き合っていかなければいけないと思う。私自身関心の高い分野であり学んでいきたい気持ちはあるが、どうしても気持ちが落ちてしまう内容ではあるためなかなか積極的に入り込めない部分もあり、このように研修を通して学ぶことができてよかった。

- 内容が頭に入ってきている感覚がないため、これから今回のような講演を聞く機会にしっかり内容を理解して、次は内容をできるだけ理解できるように聞いていきたいと思う。

- 講師自身の幼少期は非常に辛いものではあったが、それをうまく昇華し漫画や映画などに反映させるというバイタリティーに感心した。また、講師の話自体も興味深いものが多く、虐待という重いテーマではありながらも、ユーモアのある話で最後まで飽きることなく聞くことができた。自分はこどもの人権問題の当事者になったことはなかったが、業務上かかわることや今後対応することがあると思うし、いつその現場に直面するかわからない中、当事者の感情など知識を得ることができてよかった。

- 虐待サバイバーの実体験を聞き、虐待は大人になっても被害者の心に深く残るもので、あってはならないことだと実感した。児童虐待は外部の目からは分かりにくく、気づいたとしても通報するのをためらってしまうという話を聞いたことがあるが、迷ったらずぐに通報することや、そのための相談・支援体制を整えることも必要だと感じた。

- 虐待の実情が具体的に示されたことで、その残酷さをより深く理解し、「虐待は決してあってはならないことだ」と強く感じた。講師ご自身が実際に母親から虐待を受けた経験を語られたことにより、言葉の重みや現実の深刻さがより心に迫った。また、虐待の原因の多くが貧困や孤独(特に母親の場合)であることが明らかになっているにもかかわらず、十分な対策がなされていない現状に対し、強いもどかしさを感じた。今後、もし周囲で虐待の兆しを感じる事があれば、ためらわずに速やかに相談機関へ連絡し、少しでも虐待の解決に向けた行動をとっていききたいと思う。

- 親と向き合う事が解決の一つであるかのような考え方と、殺人事件に関して擁護するわけではないがと言いながら被害者よりも加害者への同情的な意見はやや疑問に思った。
- とても感動した。
- 虐待をされていても、されている子どもは声をあげることができない、できにくいということをしっかり頭において、少しでもおかしいなと思うことがあったら通報や相談など、行動に表していきたいと思った。
- 講師の先生の話の中で、そういえばと思う部分もあったので、自分を見つめなおす機会としたい。
- 歌川講師の幼少期の頃の経験を聞き、とても胸が苦しくなった。自分も子どもがいるため、自分の子どもへの接し方や向き合い方も改めて考え直すことができた時間だった。
- 児童虐待の相談件数が増えていることや、ケースワーカーが不足している現状を知る機会となった。児童虐待が起きる根本的な原因にも触れており興味深かった。
- 自身の体験に基づきながら子どもの人権についての話をしていただき、今後の業務でも生かしていきたいと思った。
- ニュースで児童虐待のニュースをよく目にすることがあり、こどもの人権が侵害されているという事実があることは知っていたが、ニュースになることなく、隠れた場所で多くのこどもたちが傷つけられていることをしり、衝撃を受けるとともに、悲しい気持ちになった。児童相談所も人手不足で1人のこどもに十分な時間をさけない実情で、こどもたちが安心して暮らしていけるために自分は何をするべきか考える必要があると感じた。
- 体験談を聞いたのは初めてだったのもあり、内容に衝撃を受けた。
- そもそも人権は生まれてきた時点でその人にあるもので、「他人の思いやりで施しや慰めに似た感情で守ってやる」ものなどといった日本的な道徳学習では、そのことに気づかない・気づけないことにとても問題がある常々感じている。人権とはなにかということを、多くの日本人が、特に古い教育を受けた大人たちが理解できていないことで、様々な人権問題が野放しになっていると感じる。

- 講師の方の経験談を交えたご講演を拝聴し、こどもの虐待の背景には母子家庭の貧困や、日本社会に根強く存在する根強い女性蔑視の風潮が影響しているということが理解できた。特に、母子家庭の半数が貧困（うち非正規労働者の約8割が年収200万円いか）であるという事実を知り非常に驚いた。また、何より、講師のお話しをお聞きし、子を持つ親としてとても心を動かされた。
- とても貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- 講師の方が体験を語っていただき、とても分かりやすかった。人権問題と聞くと、遠い話に聞こえてしまいがちだが、今回のようなお話が聞けるとより身近に考えることができた。
- 虐待サバイバー当事者の話を聞くととても貴重な機会だった。周囲に1人でも頼れる人がいることは当事者にとってとても重要であることを強く実感した。母子保健に関わる人間として、地域で虐待を見逃さない、孤立させないために自分に何ができるか、改めて考えていきたいと思う。
- 講師の方はかろうじて、心を許せる人がいたことが救いだったが、誰でも同じ状況ではないのだろうと思うと悲しくなった。こどもたちがいじめや虐待などの被害にあっている人がいるときは、いち早く心のケアをしていくことが必要と思った。
- とてもわかりやすかった。個人的には、40歳になって漫画家になられたというお話が大変興味深く、私自身も年齢を気にせずにいろんなことに挑戦したいと思った。
- 体験に基づいた貴重なお話しをありがとうございました。
- 実際に虐待を受けた経験があるという講師の方の話を聞いて、自分が想像していたよりも壮絶な過去を背負いながらも、今こうして全国各地で講話を行いながら活動されていると知り、とても強い方だと思った。虐待問題の解決には、親も含めた根本的な支援が必要なのだとわかった。これからは虐待を受けている疑いのある子どもを見かけたら、勇気を出して通報しようと思った。
- 実体験に基づく話を聞くことで、理解しやすかった。実体験を踏まえた内容で、こどもの人権についてより身近に感じることができた。想像をこえる人生を歩んでいて、その中でも、人に伝わりやすい、心に響く内容になっていたことに驚いた。
- ご自身の経験をもとに、実際に起きているこどもの人権問題について講演をしてくださり、とてもためになった。私自身子どもにかかわる部署で仕事をしていますが、仕

事上虐待の詳細や実態に触れることはないためどこか遠い話のような感覚でいたが、今回の講演を通して「こどもの人権問題」がより身近であることを再確認した。このような貴重な講演に参加する機会をくださりありがとうございました。

- 講演者の過去のお話は胸が痛んだ。昭和時代に暴力の教育はある程度当たり前の時代だったのかもしれないが、それでも過度な暴力だったと思う。子ども入園課で働く中で、虐待児やヤングケアラーなどさまざまな世帯があることを知り、私の身の周りの友人も声を上げていないだけで被害者がいるのかもしれない。被害者のつらい日々は絶対に否定しないように心がけたい。
- 講師の方の話術がとてもうまく、自身の辛い経験がある中で最後はお母様に手を差し伸べて助けあったというのは私には出来ないなと思った。今日の講演を聴いて現業務に役立てることができれば頑張っていきたいと思った。
- ニュースなどでこどもの虐待によって生じた事故を知ることがあったが、年間でこんなにも多くの報告が挙げられていることは知らなかった。講師の方の経験をお聞きしたことで、こどもに対する接し方を再度考えることができた。
- もっと多くの人が子どもの人権について知ることが大切だと思った。
- こどもの人権侵害について、今回の公演を聞いて、私の知らなかった現実があることを知り、真剣に対応していかなければならないと感じた。
- 貧困や孤立、女性軽視の風潮など、実に様々な要因が絡み合って虐待が起きているという事実を知ることができて有意義だった。虐待のケアのみならず、虐待が起こりうる原因を減らしていくための取組が急務であるように感じた。縦割りで対応するのではなく、部署や団体を越えた包括的な対応が重要であると考えた。
- 日本や他国の統計データや講師自身の実体験による現状をお話いただき、虐待や人権について、よりリアルに学ぶことができた。また、私自身も子どもがいるため、虐待等が起きないように留意したいと感じた。
- 虐待を受けた当事者の実体験を交えた講演だからこそ、より深く児童虐待の実態について理解を深めることができた。児童虐待を発見したときは見て見ぬふりをするのではなく、子ども家庭支援センターに通報しようと思った。
- 自分の人生や、子供とのかかわり方、様々な事件の根っこの背景など、考えさせられるきっかけとなった。

- 改めて、自身の対応を見直す機会となった。
- 講師の実体験をもとに説明が大変わかりやすかった。
- 今回の講演では、子供の人権問題について、子供の人権問題は年々増加していることが分かった。問題が少しでも、減少させるためにも実体験を交えた研修は重要だと感じた。
- 当事者の方が前向きに生きていて良かった。
- 話は聞きやすく、眠くなることもなかったが、自身の虐待と再生の振り返りであり、研修の目的が子どもの人権(をどう守るか)であるとするなら、内容は薄かったような気がする。
- 講師の方壮絶な人生を知ることができた。いろいろ感じるなり考えたりできた。
- こどもの虐待について、実体験も交えながらの講演であったのでとても心に残った。疑わしい場合は早く通報したり、ばあちゃんのような存在になりたいと思う。
- 母子家庭や女性の人権保護のためにある大分市の母子生活支援施設しらゆりハイツについても歌川先生に知っていただければと思った。
- だいぶ解消されてきたはものの未だに女性軽蔑は存在しており、その影響で子供にも被害が及んでいるのだと知った。今すぐにできることは無いかもしれませんが考え方だけでも後世に改善されるよう伝えていけたらと思う。LGBTについて深く考えさせられた。多様性を認めようという流れと同時に、はっきり区別するべきという意見もあると思われ、行政としての対応がより複雑・多様化してきていることを感じた。
- 今回の講演を聴講し、育児中の親として、深く考える貴重な機会となった。
- 講師の方の幼少期の話は、とても辛いものがあつた。自身の体験を踏まえ子どもの感じていること、声を代弁していただいたように思う。また、心に寄り添う存在、反対に加害者となる恐さも同時に感じ、自身を見つめなおすきっかけにもなった。家庭では我が子に接し、職場等では市民の方に相談を受けることもあると思う。判断と知識、なにより子どもたちの声に耳を傾け、寄り添える存在でありたいと強く感じた。
- 講師の方が笑顔でポップな絵とともに紹介していたのと対照的に、重たい内容の話だったため、より過去の虐待の経験の凄惨さが際立っていた。声を上げづらいこと

ものの代わりに、大人が通報できるような姿勢を身につけるとともに、加害者についても「加害者にさせない」環境づくりが必要だと感じた。

- 日本の母親が頑張りすぎているのは間違いないと思うが、全ての母親がそうとは言えないと思う。母親だから子育てをすべきという古からの考え方は間違っているが、母親だから育児をしている、当然愛情を持っているはずという擁護にも違和感を覚えた。母が偉い、父親がんばれという主張は一概には当てはまらないようにも感じた。何事にも関心を持ち、人権問題に対して相談できる雰囲気づくりに心がけていかなければならないと感じた。

- 実体験を基にした講演であったため、内容が濃く非常に考えさせられる研修だった。虐待が疑われる場合はまず電話を試みることを大事にしていきたい。

- 非常に有効な講演だった。

- ありがとうございます。実体験と、実情を示すデータがどちらもふんだんに盛り込まれており、非常に参考になった。

- 講師自身の実体験を踏まえた話だったのでリアル感があり、子どもの人権について真摯に考えようと思えた。

- 講師の体験に基づく内容であったり、外国との比較であったりと問題や内容がわかりやすかった。内容としても知らない点も多く非常に勉強になった。重い内容ではあったがこういった研修も大切だと感じた。

- 講師の生い立ちから現在まで赤裸々に話され耳を塞ぎたくなる場面もありましたが、子どもたちが安心して生活できるよう支えることが私たち大人の責任だと強く感じた。

- 児童虐待を受けた経験者の話を聴くことで、理解を深めることができた。

- 講師の方の経験等を元としたことで自分自身の身近に人権問題はあるものだと感じる事ができた。自分自身の過去を振り返ると似たことがあったり加害者になっていたのではと思う。今回の講演を通して自分も子供がいるので気をつけていこうと思う。

- 自身の実体験であり、またイラストを用いたスライドで非常にわかりやすかった。まだ時間が足りなさそうだったので、もう少しお話を聞いてみたいと思った。

- ご自身の体験をもとにした大変学びのある話だった。
- 講師の方の実体験に基づいた講演に聞き入ってしまった。ショッキングな話もあったが虐待を受ける子供の心境などを知り、子供の人権問題について考えるきっかけとなった。
- たとえ話として、巨人の星が英雄、スター的な漫画だったとあり、昔はそれが普通でいいことのように感じられたというのは、まさにその通りで私の中で今もそのなごりがあるように感じた。その時、私はまだ子供で読んだことがあるわけでもないが、断片的な情報だけでもすごいと思っていた。お話をきいたことにより、たしかに、暴力的なシーンも多くあり、今では、よくない話であることに気づいたことに驚いた。
- 虐待する親もされる子供も、心の拠りどころや、ストレスなどの原因に対する支援が必要だと感じた。
- 歌川氏の壮絶な幼少期のエピソードを聞いて恐怖を感じた。子どもへの虐待は意識の違いで昔から起きていた、それがより今では明るみに出ているだけの違いなのかと思った。貧富の差というの大きな要因の一つであるので雇用体制、子どもの預かり所に関する見直しが必要なのではないかと思う。
- 「人生なんとかなる」という言葉が心に残った。
- 虐待によって亡くなる子供の数に驚き心が痛んだ。子供の虐待を身近に感じた事は無いが、見かけたら迷わず通報しようと思う。一児の父親として、子供の繊細な心を傷つけないように教育しようと思った。
- リアルな話を聞けた。いろんな人権問題がつながっていることに気づくことができた。
- 今後とも同様な講演をお願いしたい。
- 歌川先生自身の実体験談などもお話ししていただいたことで、とても話の内容に引き込まれ、子供にも人権があり、大切に守っていかなければならないと強く感じた。本当にありがとうございました。
- 自身の経験をもとにお話しいただきわかりやすい内容だった。勉強になった。
- 考えさせられる内容だった。ありがとうございました。

- 子供の人権については深く考えたことがなかったため、この研修を機にもっと学んでいきたいと感じた。
- 非常にためになる講義だった。
- 大変貴重な時間だった。
- 子供たちは、大人より自分の意見を伝えることが難しいので、わずかな SOS を見逃さず、子供たちの声に耳を傾け、実際に行動に移すことができる大人でいたいと思う。
- 虐待サバイバーの方から本当に経験した生の声を聴くことができ、とても良い経験となった。また、児童虐待を防止できるのは、貧困等の問題を抱えている親等に国をあげて手厚い支援をしていくべきであることが理解できた。
- 人権を考える貴重な機会になった。
- 実体験を踏まえたうえで話をしてくれたので、人権侵害の現状を知ることができた。
- 子どもの人権について考えさせられる講演だった。体験談を通じて、多様性と尊厳の大切さを改めて実感した。誰もが尊重される社会の実現が必要だ。
- 市職員としてよその子供であっても少しの変化に気づき何かしらの対策が講じる必要があることを十分に理解した。
- 三人の子育て中。自分自身の子育てを振り返る良い機会となった。今後の子育てに活かしていきたいと思う。
- 妻のサポートをして夫婦ともども虐待にならぬよう努めていきたい。
- 子どもの人権侵害は、経済的に余裕のない家庭で起こる割合が多いことを知った。これはひとえに各家庭や個人の問題ではなく市や県、国の経済や制度も関係するところが大きいと感じた。
- 虐待については身近にはなく、ニュースやドラマとかで観たり聞いたりしていただけたので、今回実際に経験された方の話を直接聞くことができ、いろいろ考えさせられ勉強になった。

- 実体験を基にした貴重なお話を聞くことができた。少しでも気になることがあれば189に通報できるようアンテナを張りたいと思う。
- 講師の実体験を踏まえた内容であり、とても理解しやすかった。
- 話の着地点が若干分かりにくかった。
- 時代の変遷とともに人々の意識も変わっていくことから、人権を含めた市民ニーズに対して敏感に対応することのできる職員となるよう意識する必要があると感じた。
- 実際の幼少期に受けた体験が語られ、そういった現実があることを実感できた。虐待があったら、当事者ではなく周りの人が気づいて迷いなく通報できるような意識づくりが必要だ。